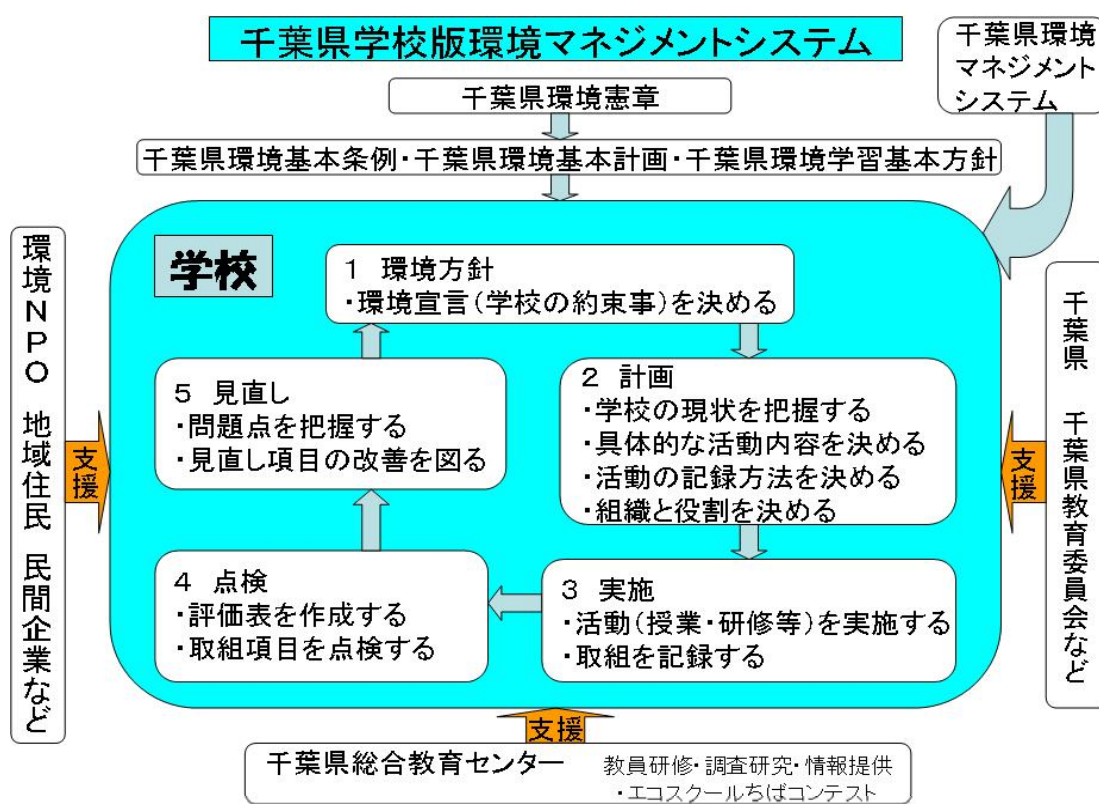


1 千葉県学校版環境マネジメントシステムの目的

千葉県総合教育センターでは、環境教育（学習）推進事業として「千葉県環境マネジメントシステム」の考えを取り入れ、すべての学校が「エコスクール（環境に配慮した学校）づくり」を無理なく、組織的に、継続して取り組むことのできるシステムとして、「千葉県学校版環境マネジメントシステム」を構築することにしました。

2 千葉県学校版環境マネジメントシステムの概要

「千葉県学校版環境マネジメントシステム」は、学校が自校の環境教育の取組を見直し、整理し、計画的に進めていくためのフォーマットです。「千葉県環境マネジメントシステム」に基づいて作成した「1 環境方針，2 計画，3 実施，4 点検，5 見直し」の一連の手続きをいいます。（下図参照）



また、実施にあたっては、基本的なコンセプトを次のとおりとしました。

(1) アクトローカリー

- ・「教育活動としての環境教育」と「事業体としての環境活動」の両輪
- ・これまでの取組を積み重ねて、さらにプラス1の活動を
- ・学校、地域の実態を生かした独自性ある活動

(2) エコマインドの育成（満足感・充実感・達成感から次の「やる気」を）

(3) 一人の100歩より百人の1歩

- ・「個から集団へ」 ・「学校から、家庭、地域へ」

(4) 記録と振り返りによる活動の改善・継続

3 エコスクールづくりの手順

千葉県学校版環境マネジメントシステムは、環境教育を既に積極的に取り組んでいる学校にとっては、自校の再評価のフレームとなり、活動のレベルアップのための有効なツールになります。一方、これまで環境教育に取り組んでいなかった学校にとっては、これから取り組むうえでのナビゲーションとなります。その手順は、次のとおりです。

(1) 計画 (P)

- ① 学校の現状を把握する。

現状確認表【様式1】(P. 9)を使い、今までの活動を環境教育の視点から、分析する。

- ② 活動内容を決める。
- ③ 環境方針を定める。
- ④ 役割を決める。
- ⑤ 記録方法を決める。
- ⑥ 見直し方法を決める。
- ⑦ 実行計画を作成する。

活動内容それぞれについて実行手順と実施時期を決め、活動項目と記録方法を組み合わせて、活動計画書【様式2】(P. 10)と年間スケジュール表【様式3】(P. 11)を作成する。

(2) 実施 (D)

- ① 計画表に基づいて実施し、その状況を記録する。
- ② 必要なデータや記録、資料等を集積する。



(3) 点検 (C)

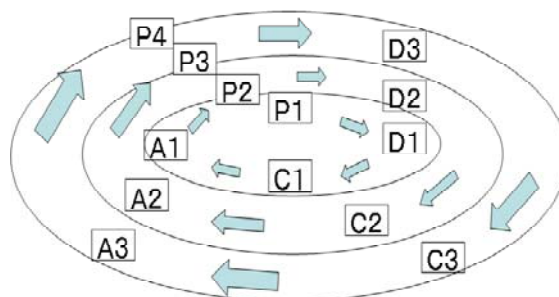
- ・実施 (D) によって明らかになった課題や問題点をその都度点検 (C) する。

【評価表例 (P. 7, 8) 参照】

(4) 見直し (A)

- ① 点検結果をもとに、当初計画の内容や方法等を見直す。
- ② 改善事項を次年度の活動計画表に加え、それをもとに次年度の活動を展開する。

現状確認表・活動計画書
・年間スケジュール表を
次年度へ引き継ぐこと！



P D C A の継続と発展

4 エコスクールづくりの具体的な方法

(1) 活動内容の絞込みの視点

- ① 「今まで、取り組んできたこと」を確認します。 <現状確認表を活用する>
 - ・教育活動としての環境教育（○印）と事業体としての環境活動（□印）の二つの視点で内容を考えてください。
- ② 「取り組んでみたい」という希望（願望度）
「これなら取り組めそうなこと」（実施可能度）
「これから取り組む必要があること」（緊急度，必要度）から考えましょう。
- ③ 地域や学校の実態・特色，環境教育としての効果を踏まえた活動を目指しましょう。
- ④ 内容領域で今まで取り組んでいないものにも挑戦しましょう。

○内容領域の例

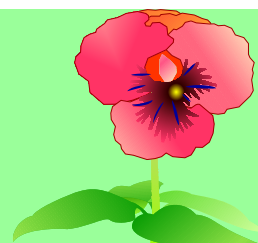
1	地球環境	地球温暖化，CO ₂ の排出削減
2	水	水の汚れ，世界の水問題
3	空気・大気	大気の汚れ，酸性雨，オゾン層
4	自然・生き物	生き物と自然，森林保護，生物多様性
5	ごみ・3R	ごみ問題，リサイクル，廃棄物
6	エネルギー・資源	省エネ，新エネルギー
7	その他	



(留意点)

- ・「学校教育目標」「学習のねらい」等に相応かどうか，活動を吟味しましょう。
- ・「単年度か，複数年度か」「単発か，継続か」「活動組織は，学年か，学校か」「繰り返し活動か，拡充活動か」等との視点から，活動を吟味しましょう。
- ・主体的，協働的に活動に取り組めるかどうか，活動を吟味しましょう。

※詳しくは，環境学習推進上の視点（P. 15）を参考にしてください。



エコスクール現状確認表の作成

自校のこれまでの環境にかかわる活動を表の項目にしたがって記入します。環境教育の担当だけでは、全校・全学年の活動を把握することが困難です。すべての教職員に働きかけ、意識付けを図ることが大切です。

作成した現状確認表から、自校の環境にかかわる取組が、どの学年で、どの教科・領域で、どんな内容の活動を、どのようにやっているか把握することができます。同様に、事業体としての取組も知ることができます。

一度現状確認表を作成すると、次年度からそれを削除したり、追加したりするだけでよくなります。新たに転入してきた教職員にも一目で活動を知ってもらうことができます。

エコスクール 現状確認表（記入例）

【教育活動としての環境教育】

テーマ・単元・ 題材名	内 容 領 域						実施教科・領域						活 動 規 模 ・ 組 織					活動の内容や方法の概略等	
	地 球 環 境	水	空 気 ・ 大 気	自 然 ・ 生 物	ご み ・ 3 R	・ 資源 ・ エネ ルギ	そ の 他	教 科	道 徳	特 活	総 合	課 外	学 級	学 年	学 校	担 当	有 志	主な内容	方法等
1 野菜や稲の栽培				○				生 活			○			○	○			畑・田で学年ごと	地域人材、地域連携
2 環境クラブ					○	○				ク							○	校内の省エネ、ごみの活動	全校調査、啓発
...																			

【事業体としての環境活動】

活 動 名	内容領域						活動規模・組織						活動の内容や方法の概略等				
	地 球 環 境	水	空 気 ・ 大 気	自 然 生 物	ご み ・ 3 R	・ 資源 エネルギ	そ の 他	児 学 級	童 学 年	学 校	担 当	有 志	教 員	家 庭 P T A	地 域 関 係 機 関	主 な 内 容	方 法 等
1	ごみの分別廃棄				○	○				○			○			ゴミの5分別活動	分別ボックスの設置
2	紙の有効利用				○	○				△			○			片面印刷紙利用、コピー削減	再利用紙の回収と活動促進
...																	

(2) エコスクール活動計画書の作成

これまでの活動を振り返り、新年度の活動内容、方針、組織等を確認し、計画表を作成します。

エコスクール 活動計画書（記入の仕方）

学 校 名		作成日	月 日
校 長 名		T E L	
担 当 者		F A X	

- ・項目にしたがって、記入してください。
- ・作成日の欄に、計画書を作成した月日を記入します。

1 環境方針（宣言）

- ・これから取り組む環境教育、環境保全活動等に関する学校全体の約束事を決めます。文章でも箇条書きでもかまいません。

2 役割分担

役 割 等	職 名	氏 名	備 考
環境統括者	校 長	〇〇 〇〇	・校長をはじめ教職員・児童及び生徒の役割を明らかにします。 ・環境統括者を校長とし、以下の環境管理責任者や環境リーダー等は、学校の実態に応じて設定します。
環境管理責任者	教 頭	〇〇 〇〇	
教職員リーダー	環境主任	〇〇 〇〇	
児童生徒リーダー	生徒会長	〇〇 〇〇	
P T A代表	施設委員長	〇〇 〇〇	
地域代表	自治会長	〇〇 〇〇	

3 活動内容（○＝教育活動としての環境教育 □＝事業体としての環境活動）

- ・現状確認表で把握した学校の実態に応じて、無理のない範囲で決めます。
- ・教育活動としての環境教育（○）と事業体としての環境活動（□）の二つの視点で内容を考えてください。

4 記録方法

- ・毎日または毎月の活動記録としてどんな様式を使用するのか明記します。

5 見直し方法

- ・活動の成果と課題をまとめ、今後の計画についていつ、どこで、だれがするのかを明記します。



(3) エコスクール年間スケジュール表の作成

- ア 活動項目 ・活動計画書の活動内容に記された項目を記入します。
- イ 具体的な活動内容 ・活動項目をどのように行うか具体的に記入します。
- ウ スケジュール
- ・継続的に実施する活動は、取り組む期間を←→で記入します。
 - ・特定の時期に実施する活動は、取り組む月に○を記入します。

エコスクール 年間スケジュール表 (記入例)

平成	年	月	日	作成
学 校 名				

活動項目	具体的な活動内容	ス ケ ジ ュ ー ル											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校周辺の清掃活動を行う。	学区内の公園を中心に年2回の清掃活動を行う。				○			○					
環境についての学習を全学年で行う。	全教科で環境に関する内容について、系統的に学習を行う。	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○
環境にやさしい稲や野菜の栽培活動を行う。	アイガモ農法による稲作や無農薬野菜の栽培を地域の協力を得て行う。		←→										
節電・節水	確実な消灯や蛇口の閉栓の呼びかけと点検を児童会が中心になって行う。	←→											
ごみの分別	分別が確実にされているか、環境委員会が定期的に点検する。	←→											
紙の有効利用	リサイクルボックスに裏面が再利用できる紙をストックして活用する。	←→											

記入上の注意

- ・活動項目の欄には、計画書の活動内容に記された項目を記入する。
- ・具体的な活動内容は、活動項目をどのように行うのか具体的に記入する。

(4) 活動の点検・見直し

今年度の活動内容を活動の記録や評価表をもとに、点検・見直しをします。次の評価表例の項目を参考に、学校で独自の点検・見直しの方法を考えてください。

【評価表例】

＜計画段階＞

(該当するものを選んでください。)

1 現状確認表を使って、環境にかかわる現状をどのように把握しましたか。	A 教職員全員で行った。 B 環境教育の担当を含め数人の教職員で行った。 C 環境教育の担当だけで行った。 D その他 ()
2 環境方針(宣言)をどのように作成しましたか。	A 全校の教職員と児童生徒で作成した。 B 一部の教職員と児童生徒で作成した。(推進委員会等) C 教職員だけで作成した。 D 環境教育の担当が作成した。 E その他 ()
3 環境方針(宣言)をどのように公表しましたか。(複数選択可)	＜校内＞ A 全教職員と児童生徒に分かるように常掲した。 B 定期的に校内放送をした。 C 集会で、発表した。 D その他 () ＜校外＞ A 保護者・地域住民に便り等で広報した。 B ホームページ等で公表した。 C その他 ()
4 役割分担ができましたか。	A 活動を推進する組織をつくった。 B 参加団体のリーダーを確認した。 C その他 ()
5 活動内容をどのように決定しましたか。	A 全校の教職員と児童生徒で決定した。 B 推進委員会等を組織し、一部の教職員と児童生徒で決定した。 C 教職員だけで決定した。 D 環境教育の担当が決定した。 E その他 ()
6 新しい取組を一つ以上取り入れることができましたか。	A できた。 B できなかった。
7 活動について多くの人に理解してもらうことができましたか。	A 保護者、地域住民にも理解してもらった。 B 全校の教職員・児童生徒と共通理解を図った。 C 全校の教職員・児童生徒に理解を図れなかった。 D その他 ()

〈実行段階〉

1 それぞれの活動を，評価してみましょう。（当てはまれば，○を記入する。）

教育活動としての取組 ↓ 記入してください。	多くの人が活動した。	意欲的に活動した。	満足感や達成感が得られた。
①			
②			
③			
④			
⑤			
事業体としての取組 ↓ 記入してください。	多くの人が活動した。	意欲的に活動した。	満足感や達成感が得られた。
①			
②			
③			
④			
⑤			

2 保護者や地域住民と連携が図れましたか。（複数選択可）	A 地域や家庭にエコスクールの発信ができた。 B 地域や家庭からエコスクールづくりの情報をとりました。 C 地域と家庭から共同で何か取り組めた。 D その他（ ）
3 活動の記録をどのようにとりましたか。（複数選択可）	A 写真・録画・録音 B 参加者の感想・意見 C 数値化したデータ D その他（ ）
4 活動の成果をあげることができましたか。	A 全ての活動で成果をあげることができた。 B 一部の活動で成果をあげることができた。 C 成果がなかった。
5 来年度，改善したり，継続したりする活動を見通すことができましたか。	A 今後の計画や抱負がもてた。 B 課題が分かったが，改善策が見つからない。 C 来年度の見通しが立たない。
6 活動の成果や今後の計画をどのように検討しましたか。	A 全校の教職員と児童生徒で検討した。 B 推進委員会等を組織し，一部の教職員と児童生徒で検討した。 C 教職員だけで検討した。 D 環境教育の担当が検討した。 E その他（ ）

(様式1)

エコスクール 現状確認表

【教育活動としての環境教育】

学校名

	テーマ・単元・題材名	内 容 領 域						実施教科・領域					活動規模・組織					活動の内容や方法の概略等	
		地 球 環 境	水 空 気 ・ 大 気	自 然 生 き 物	ご み ・ 3 R	・ エ ネ ル ギ ー	そ の 他	教 科	道 徳	特 活	総 合	課 外	学 級	学 年	学 校	担 当	有 志	主な内容	方法等
1																			
2																			
3																			
4																			
...																			

【事業体としての環境活動】

	活 動 名	内 容 領 域						活動規模・組織					活動の内容や方法の概略等					
		地 球 環 境	水 空 気 ・ 大 気	自 然 生 き 物	ご み ・ 3 R	・ エ ネ ル ギ ー ・ 資 源	そ の 他	児 童					教 員	家 庭 P T A	地 域	関 係 機 関	主 な 内 容	方 法 等
								学 級	学 年	学 校	担 当	有 志						
1																		
2																		
3																		
4																		
…																		

(様式2)

エコスクール 活動計画書（平成 年度）

学 校 名		作成日	年 月 日
校 長 名		T E L	
担 当 者		F A X	

1 環境方針（宣言）

--

2 役割分担

役 割 等	職 名	氏 名	備 考
環境統括者			
環境管理責任者			
教職員リーダー			
児童生徒リーダー			

3 活動内容（○＝教育活動としての環境教育 □＝事業体としての環境活動）

--

4 記録方法

--

5 見直し方法

--

(様式3)

エコスクール 年間スケジュール表 (平成 年度)

平成	年	月	日	作成
学 校 名				

活動項目	具体的な活動内容	ス ケ ジ ュ ー ル											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月

記入上の注意

- ・ 取組項目の欄には、計画書の活動内容を記入する。
- ・ 具体的な取組内容は、取組項目をどのように行うのか具体的に記入する。

<資料> (1) エコスクール現状確認表 実践例

(様式1)

エコスクール 現状確認表

【教育活動としての環境教育】

	テーマ・単元・題材名	内 容 領 域						実施教科・領域					活動規模・組織					活動の内容や方法の概略等	
		地 球 環 境	水 空 気 ・ 大 気	自 然 生 き 物	ご み ・ 3 R	エ ネ ジ ー 資 源	そ の 他	教 科	道 徳	特 活	総 合	課 外	学 級	学 年	学 校	担 当	有 志	主な内容	方法等
1	〇〇中生物調査隊		○	○								○				○	○	自然の良さを伝える	生物調査、環境調査
2	愛校作業			○	○					行					○			校内と周辺の清掃	
3	身近な生物の観察			○				理科						1				身近な生物の観察	植物・微生物の採取
4	動物の生活と種類			○				理科						2				身近な動物の観察	調べ学習、地域連携
5	自然と人間	○	○	○	○	○		理科						3				自然環境と人とのかわり	環境調査・調べ学習
6	学級花壇			○						学					○			学級花壇の管理	草取り・水やり
7	世界から見た日本の姿	○	○	○	○	○		社会						2				地球環境の変化、資源と産業	文献調査学習
8	現代の民主政治と社会		○					社会						3				民主主義とまちづくり	文献調査学習
9	私たちの暮らしと経済	○	○	○	○	○		社会						3				公害の防止と環境保全	文献調査学習
10	地球社会と私たち	○	○	○	○	○		社会						3				21世紀の資源・エネルギー・食糧問題	文献調査学習
11	エネルギー変換とその利用	○	○	○		○		技術						2				エネルギー変換とこれからのエネルギー	
12	栽培の基礎		○	○	○			技術						3				作物の育つ環境、土づくり、肥料	野菜栽培
13	未来をひらく微生物	○	○	○	○	○		国語						1				ゴミの浄化、クリーンな地球	説明文
14	江戸からのメッセージ				○	○		国語						1				リサイクル、リユース、エコな生活	説明文
15	モアイは語る	○				○		国語						2				地球の未来への危機感	説明文
16	生き物として生きる			○				国語						3				生物としてのつながり	論説文
17	A Cool Car, a Clean Future	○		○		○		英語						2					
18	Clean Energy	○		○		○		英語						1					
19	健康と環境	○	○	○		○		保健体育						2					授業
20	消費生活と環境	○				○	○	家庭科						3					
21	これからの食生活	○			○	○	○	家庭科						2					
22	日本の歌	○	○	○	○			音楽						3				花・夏の思い出・浜辺の歌	授業

【事業体としての環境活動】

	活 動 名	内 容 領 域						活動規模・組織					活動の内容や方法の概略等	
		地 球 環 境	水 空 気	自 然 生 物	ご み ・ 3 R	エ ネ ジ ー 資 源	そ の 他	児 童 学 級	生 徒 学 年	教 員 学 校	家 庭 担 当	地 域 有 志	主な内容	方法等
1	ビオトープ		○	○						○			ビオトープの管理と生物観察	定期的な清掃、授業で活用
2	紙の有効利用				○	○			○		○		ミスプリントなどの再利用	裏紙としての活用
3	廃品回収				○	○			○		○	○	新聞紙、空き缶などの回収	P T A との連携
4	節電・節水		○			○			○		○		電灯、清掃節水、冷暖房等	学校全体での呼びかけ

(2) エコスクール 活動計画書 実践例
(様式2)

エコスクール 活動計画書 (平成21年度)

学 校 名	〇〇市立〇中学校	作成日	平成21年7月10日
校 長 名	〇〇 〇〇	T E L	043 (00) 0000
担 当 者	〇〇 〇〇	F A X	043 (00) 0001

1 環境方針 (宣言)

私たちは、教科学習や特別活動など全教育活動を通じて、環境保全の意識を高め、地域や保護者と連携しながら、よいと思うことに進んで取り組みます。また、地域に学び郷土を愛し、将来進んで自然環境を守ろうとする生徒を育成する教育活動を実践します。

2 役割分担

役 割 等	職 名	氏 名	備 考
環境統括者	校 長	〇〇 〇〇	
環境管理責任者	教 頭	〇〇 〇〇	
教職員リーダー	環境主任	〇〇 〇〇	
児童生徒リーダー	生徒会長	〇〇 〇〇	

3 活動内容 (○=教育活動としての環境教育 □=事業体としての環境活動)

- 生物調査隊を結成して、学校周辺の自然環境を調査し、授業や掲示物などで自然の素晴らしさを伝える活動を行う。
- 環境についての学習 (理科・社会・技術・国語・英語・保健体育・家庭・音楽・総合など) を全学年で行う。
- 環境について考えさせるために野菜の栽培活動や花壇づくりを行う。
- 愛校作業 (学校周辺の清掃活動) を行う。
- ビオトープを活用して、学校周辺の自然環境について考える活動を定期的に行う。
- ☐ ゴミの分別 ☐ エコキャップ運動 ☐ 紙の有効利用
- ☐ 節電・節水 ☐ 廃品回収

4 記録方法

- ・生物調査や授業の様子は、写真やビデオに記録し、CDやDVDなどに保存する。
- ・生徒や保護者、地域の方々が参加した活動については、参加者数や感想などを記録に残す。
- ・ゴミの分別や紙の有効利用については、担当者に定期的に状況を確認し、記録に残す。

5 見直し方法

- ・年度末に今年度の取組の成果と課題について、校内で協議し評価表にまとめ、次年度の計画書作成に生かす。

(3) エコスクール年間スケジュール表 実践例

(様式3)

エコスクール 年間スケジュール表 (平成21年度)

平成 21年 5月 10日 作成
学 校 名 ○○市立○中学校

活動項目	具体的な活動内容	ス ケ ジ ュ ー ル											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
愛校作業（学校周辺の清掃活動）を行う	学校周辺の清掃活動を行う。	○		○	○		○	○		○	○		○
環境についての学習を全校で行う	全教科で環境に関する内容について、系統的に学習を行う。	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○
野菜栽培と学級花壇づくり	環境について考えさせるために野菜の栽培活動や花壇づくりを行う。		←										→
生物調査隊の活動	生物調査隊を結成して、学校周辺の自然環境を調査、授業や掲示物などで自然の素晴らしさを伝える。		←										→
ビオトープの活用	教科や特別活動などで、ビオトープを活用して、定期的に学校のまわりの自然環境について考える活動を行う。	←											→
廃品回収	リサイクル活動を活発にするため、学区の小学校と連携し、年3回の合同廃品回収を行う。				○			○			○		
節電・節水	確実な消灯や閉栓の呼びかけや点検など、生徒会が中心になって行う。	←											→
ゴミの分別	ゴミがきちんと分別されているか、担当に定期的に確認する。	←											→
紙の有効利用	リサイクルボックスに裏面が再利用できる紙をストックし活用する。	←											→

記入上の注意

- ・ 取組項目の欄には、計画書の活動内容に記された項目を記入する。
- ・ 具体的な取組内容は、取組項目をどのように行うのか具体的に記入する。

(4) 環境学習推進の視点

『千葉県環境学習基本方針』推進に当たっての視点	学校をフィールドとした場合の視点
1 みんなが連携・協働し地域社会全体で取り組む。	学校の特色を生かした主体的・協働的な総合活動に取り組む。
留意事項 ①全教育活動の中で、各学校の実態や創意工夫を生かして取り組む。 ②活動者が意欲や向上心、満足感や達成感を十分に味わい、主体的に継続・発展できることを重視する。 ③学校全体で取り組む。学年で取り組む。学級で取り組む。個々で取り組む。 ④学校経営の視点から、子どもの取組と教職員の取組を結び付ける。 ⑤活動を、家庭や地域、関係機関等に発信・拡充し、それらと相互に連携・協働し、地域社会全体の環境学習活動にしていく、という方向性を意識して取り組む。	
2 生涯にわたる学習活動として取り組む。	生涯にわたる学習活動につながるものとして取り組む。
留意事項 ①「活動の生活化」の視点から、学習活動を構想、実施する。 ・個々の日常生活での意識化・行動化に結び付けられるようにする。 ・「子ども」発「家族」へ、「学校」発「家庭・地域」へ、スムーズに広げられるようにする。 ②「子どもの学びの発達」の視点から、学習活動を構想、実施する。 ・「これまでの学び」「今後の学び」を意識して各学年段階の学習活動を構想し、小学校6年間、(中学校・高校は各3年間)をトータルにデザインする。 ・小学校入学前から社会人に至る「学びの発達」の視点をもち、小学校～高校での子どもの学びを意識して学習活動を構想する。	
3 地域の環境保全活動から学ぶ。	地域の環境保全活動から学ぶ。
留意事項 ①地域の環境保全活動に目を向ける。 ②地域で行われている活動から学ぶ、行っている人から学ぶ。 ③地域の活動を学校(学習)に取り込む。 ④学習活動を地域に発信する、広げる。	
4 環境問題を多面的・総合的に捉える。	環境問題を多面的・総合的に捉える。
留意事項 ①各教科・領域等の教育活動(教育課程)を、環境学習の視点から見直す。 ・教科・領域を結びつけ、横断的・総合的な学習活動という視点を重視して実施する。 ②学校を事業体として、環境改善の視点から見直す。 ③個々の活動を関連づけて多面的・総合的に捉える。 ④個々の環境問題を関連づけて多面的・総合的に捉える。 ⑤環境を取り巻く状況を、善悪二元論を超えて多面的・総合的に捉える。	

そして、上記4つの留意事項に基づき、学習活動を実際に行う際には、基本的に次の2点を含むことが必要と考える。

- ・その課題・問題を、身近な事柄と関連して理解する活動を実施する。
- ・その課題・問題の解決に向けた具体的活動を構想し実施する。

< 用 語 の 解 説 >

千葉県環境憲章

平成5年2月19日公告

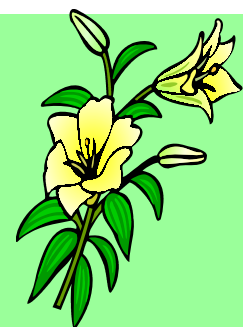
今、地球はたいへん傷ついています。人間のさまざまな営みが自然の微妙なバランスを崩し、生物の生存基盤をおびやかしています。そして、この根底には人間の「生き方」が大きく関係しています。このままでは、取り返しがつかなくなります。

私たちのふるさと千葉は、美しい海岸線やなだらかな山々、温暖な気候など自然の恵みを受けながら、先人のたゆまぬ努力により今日の社会を築いてきましたが、この過程で空気や水や土の汚染、増大するごみ問題などが発生し、豊かな自然も一部では失われつつあります。

千葉県は首都圏の重要な機能の一翼を担い、また世界に向け大きな飛躍が求められていますが、うるおいとやすらぎのあるふるさととして、これからも調和ある発展を図り、将来の世代に引き継いでいかなければなりません。

私たちは、かけがえのない地球をささえる一員であることを考え、環境問題に関心を深め、行動する新たなライフスタイルの確立をめざして、ここに千葉県環境憲章を定めます。

- 一 便利さや物を優先するくらしを見直し、地球にやさしいくらしに努めましょう
- 二 貴重なエネルギーを大切にし、さわやかな青空をめざし、車の上手な利用や適度な冷暖房などに努めましょう
- 三 房総の青い海、きれいな川や沼をとりもどすよう、よごれた水を流さない心づかいと実践に努めましょう
- 四 限りある資源の有効活用に努め、「ごみ・ゼロ成長社会」をめざし、ごみを減らし、リサイクルを進めましょう
- 五 身近ないきものや緑とのふれあいを通じ、自然の成り立ちと役割を学び、生物と共生できる自然環境の保全に努めましょう
- 六 私たち一人ひとりが環境の守り手であることを自覚し、家庭、学校、職場、地域で力を合わせ快適な環境づくりを進めましょう



※ ESD(Education for Sustainable Development)

「国連持続可能な開発のための教育の10年」のことで、持続可能な社会の実現を目指し、一人ひとりが、世界の人々や将来世代、また、環境との関連性の中で生きていることを認識し、よりよい社会づくりに参画するための力を育む教育。

※ 千葉県環境マネジメントシステム

「環境マネジメントシステム」とは、事業者が自主的に環境保全に関する取組を進めるに当たり、環境に関する方針や目標等を自ら設定し、これらの達成に向けて取り組んでいく体制のこと。千葉県のすべての機関で、環境保全施策の推進と環境負荷の低減を目的としたISO14001に適用したマネジメントシステムを策定している。

※ 千葉県環境基本条例 千葉県環境基本計画

千葉県環境憲章を受け、平成7年に、県の環境保全施策の基本となる「千葉県環境基本条例」が制定された。翌8年には、条例の基本理念「健全で恵み豊かな環境を保全し将来に継承する」を実現するため、「千葉県環境基本計画」が策定された。千葉県の環境施策の新たなマスタープランとなる千葉県環境基本計画は、平成20年3月に新たなものが策定された。

これらのもとに、分野別の各種計画を定め、持続可能な社会づくりに向けた施策を推進している。



＜編集・発行＞

千葉県総合教育センター（カリキュラム開発部）

〒261-0014 千葉市美浜区若葉2-13

TEL 043-276-1274

FAX 043-276-1272

E-mail sosekaihatu2@chiba-c.ed.jp

発行日：平成22年2月17日